

Windom の解答速報 杏林大学(医) 英語

解答者講評

I

ア	④	イ	②	ウ	①	エ	③	オ	②
カ	②	キ	①	ク	①	ケ	①	コ	①
サ	④	シ	③	ス	②	セ	①	ソ	②
タ	③	チ	①	ツ	④	テ	②	ト	②

II

ア	③	イ	①	ウ	②	エ	③	オ	④
カ	②	キ	①	ク	④	ケ	④	コ	④
サ	④	シ	②	ス	③	セ	③	ソ	③

III

ア	③	イ	②	ウ	①	エ	④	オ	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

IV

ア	③	イ	③	ウ	④	エ	①	オ	③
カ	②	キ	④	ク	③	ケ	③	コ	④

I

英文は2つとも、杏林大学の昨年出題された英文に比べて読みづらいものとなり、特に英文2はその読解に苦戦した受験者も少なくなかったものと推察される。設問も、例えば(サ)や(シ)など、1つの解答に絞りきれない可能性のある微妙なものもみられ、英文のわかりづらさと相俟って、予定外に多くの時間を読解セクションに費やしてしまった人もいたことであろう。大問Iの正答率は例年よりも低いと予想される。

II

概ね、標準レベルである。いくらかの問題につき、いかにコメントを付す。(イ)は、the Japanese ()と、the を付けるように試験時に訂正があったとのこと。集合的に「全小作農」を表す the peasantry の形を完成させるのが最も普通であろう。(キ)は、when が時間の意味を表す(「～するとき」の意の)接続詞 when ではなく、time を先行詞とする関係副詞である点に注意。すなわち、形容詞節を構成しているので、未来のことは未来時制を用いて表現するのが適切。(ケ)は ought to～「～のはずだ」を選択するのが、無難。have to～には「～であるに違いない」の意味もあり、これでも文の意味は通じるが、学校文法では have to は「～しなければならない」の意味を標準ととらえる傾向が強い。これは解答として選ばない方が安全であろう。(ソ) what with A and (what with) B 「AやらBやらで」は、場合によっては what with A, B and C となる点にも注意。

なお、(ウ)の It is dangerous to swim in this river. を書き換えた This river is dangerous to swim in. や(オ)の as far as と as long as の区別、(コ)の despite とそれに類する語の区別は、いずれも WINDOM の冬期講習・直前講習で取り上げたものである。

III

難易度が高いのは、(ア)と(ウ)であろう。(ア)の選択肢③の could と④was able to の区別は、WINDOM の冬期講習で扱われたが、本問では、「過去の一般的能力(しようと思えばいつでもできる能力を持ち合わせていたこと)」を表す could がより自然であろう。(ウ)の①under the weather 「体調が悪い」は、思いつきづらいレベルの成句であるかもしれない。ただ、この成句を掲載している熟語帳もある。暗記しておくのがよいだろう。上記以外のもは、平均かややそれを上回る水準の問題である。

IV

問題としては標準的だが、10問中少なからぬ問題は、WINDOM の教科書や講習会用テキスト、市販の問題集に類問がある定番問題なので、7題は正解したい。

全体としては、昨年に比べ難化したと見られるが、正規合格には70%は欲しい。